

☾ 次期プラン策定における

意見聴取の進め方

久留米市健康福祉部地域福祉課 ・ 社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会

1

意見聴取の目的

地域住民をはじめとする多様な主体と策定過程を共有することで、地域福祉の意識醸成を図っていく。
また、多様な意見を計画に反映する。



- 「地域福祉計画」は、計画の策定過程を通じて、地域住民が地域の問題を自分の問題として受け止め、できることから具体的な活動を始めたいという意識が醸成され、地域住民等の自主的・主体的な活動による新たな地域づくりの輪が広がっていくような計画である。
(福岡県『市町村地域福祉計画策定ガイドライン』より)
- 「地域福祉活動計画」とは、社協が呼びかけて、地域住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営する者が相互に協力して策定する地域福祉の推進を目的とした民間の活動・行動計画です。
(全社協地域福祉推進委員会企画小委員会『市区町村社協中期経営計画策定の手引き』より)

2

意見聴取の方法① 市関係課ヒアリング

目的

- **各分野の課題把握**
 - ・「狭間」「対応できない」「支援しにくい」と感じている課題の把握
- **包括的な支援体制の認識共有**
 - ・重層事業への二ーズの掘り起こし
 - ・既存事業がこうなればいいと思うこと
- **今後の連携可能性**
 - ・各分野の取組みの方向性
 - ・狭間の課題等への対応のために必要なこと

対象：事務局課（16課）＋α

- | | |
|-------------|------------------|
| ▶ 防災対策課 | ▶ 地域保健課 |
| ▶ 協働推進課 | ▶ 子ども政策課 |
| ▶ 地域コミュニティ課 | ▶ 家庭子ども相談課 |
| ▶ 障害者福祉課 | ▶ こども子育てサポートセンター |
| ▶ 長寿支援課 | ▶ 労政課 |
| ▶ 介護保険課 | ▶ 住宅政策課 |
| ▶ 生活支援課 | ▶ 学校教育課 |
| ▶ 保健予防課 | |
| ▶ 健康推進課 | |

※上記に加え、新しい課題等を踏まえた関係課

（想定：総合政策課、広聴・相談課、環境保全課、商工政策課、交通政策課、建築指導課、市営住宅課、北野総合支所）

3

意見聴取の方法②

市民・関係団体等（現プラン同様）

- 幅広く意見を聴取するため、くるモニ・市民意識調査を実施
- 現プラン策定時からの変化を把握するために前回ヒア団体にアンケート調査を実施
- 幅広い団体・組織からの意見聴取のために各委員にアンケート調査を実施
- 自分ができることを考えるきっかけとなるような市民参加ワークショップを実施

市民
意識
調査

（くるモニ含む）

アン
ケート

（前回ヒア団体）
（協議会・部会委員）

ワーク
ショップ

4

意見聴取の方法③

関係団体等ヒアリング（新たな団体等）

目的

○ 活動状況の把握

- ・ 団体の活動から現プランの進捗を測る
- ・ 次期プランに必要なことを把握

○ 新たな課題の把握

- ・ 活動中での気付きなど

○ 包括的な支援体制への関わり方の可能性を探る

- ・ 各団体が持つネットワークの把握
- ・ 他団体、異分野とのつながりニーズ把握
- ・ 公的機関等と連携できそうなことの意見交換

対象

現プランの取組項目ごとに1～2団体を選定

（現時点で24団体）

（選定の視点）

- ・ 現プラン策定時に意見聴取ができていない、時代のニーズを捉えたり新たな課題を把握していたりする可能性のある団体
※R2～新たな活動を開始した団体は対象
- ・ 現プランの取組項目の多くに合致する取組みをしている団体



関係団体等ヒアリング 途中経過報告

(R6.10.25時点)

ヒアリング実施済団体（18団体）

- ▶ 久留米グリーンフケアC a f e
- ▶ 障害者就業・生活支援センターぽるて
- ▶ ボナペティ
- ▶ IPC西国分
- ▶ 雲遊寺
- ▶ 上津子ども食堂
- ▶ 久留米大学 ランブクピティア准教授
- ▶ 『ちょいボラ』利用者
- ▶ (株) 丸信
- ▶ グランピア津福自治会
- ▶ (株)TASUKIリハビリサービス
- ▶ 障害者差別をなくす会
- ▶ 筑後川コミュニティ財団
- ▶ 祐誠高校生（上津子ども食堂ボランティア）
- ▶ 久留米大学生（久留米・筑後体験演習履修生）
- ▶ 重層会議で取り上げたケース対象者
- ▶ NPO法人未来学舎
- ▶ 久留米市民生委員児童委員協議会会長



ヒアリングで見えてきたこと 「関係を豊かにする」に関連 ①

意見

- ✓ 生活時間のズレやスマホの影響で、**家庭内のコミュニケーション**が薄れている。家庭内で“働くこと”の話ができていない。失敗から学び、人とのつながりの中で物事を解決する**経験が乏しい**。（ぽるて）
- ✓ **子どもの縦（異年齢）のつながり**が少ない。子ども食堂は他学年との交流の機会。“**小さな社会**”を体験できている。（上津子ども食堂）
- ✓ **地域の人顔を知らない**。子ども食堂のように地域の人と関われる集まりがもっとあるといい。（久留米大学の学生）
- ✓ エントランスに自販機もあるので、住民同士顔を合わせる機会も多い。**「お帰りなさい」「元気にしとった？」と声を掛け合っている**。（グランピア津福）

キーワード

-  **コミュニケーション・経験の乏しさ**
-  **子どもの頃の社会体験、子ども同士で自然に学び合う機会の重要性**
-  **日常の関係性の大切さ**
平時から災害時まで



ヒアリングで見えてきたこと 「関係を豊かにする」に関連 ②

意見

- ✓ **災害時の子どもの居場所**がない。平時から使える子どもの居場所があれば、災害時も自然と集まれる。（雲遊寺）
- ✓ 民生委員さんと話して、やんちゃな子の**背景には家の事情が色々ある**、ということを知った。**背景を汲み取ることが大切だ**と気付いた。（祐成高校の生徒）
- ✓ 病児保育実施により、**困難な状況にある社員がいることを知ること**で、**社員同士で気にかけあう関係性が生まれた**。（（株）丸信）
- ✓ 「辛かったことを話せる場所がある」と知っていることがお守り。今必要でなくても**“場”があることを心の支え**にしている人がいる。（グリーンケアCafe）

キーワード



**家庭や学校以外での
子どもの居場所**

平時から災害時まで



**「知る」ことで生まれる
関係性**



**いざという時の頼り先が
あることが心の支え**



ヒアリングで見えてきたこと 「寄り添う体制を整える」に関連 ①

意見

- ✓ 支援が必要な家庭ほど、**他者とのつながりが**ない。（IPC西国分）
- ✓ 社会全体が個人主義で意見も多様に。**他者の関わりを拒む人**もいる。
要支援者含め**誰がどこにいるかわからない**。（(株)TASUKIリハビリ）
- ✓ 本当に支援が必要な外国人は**窓口に行くこともできない**。
解決よりも愚痴を聞いてほしいというニーズもある。
外国人避難者のために必要なのは「外国の文字で説明すること」ではなく「**関係性を作れる相手**がいること」。（ランブクピティア准教授）
- ✓ 専門家で“処置”はできても“**ケア**”はできないことがある。
人として関わることが大事。
誰にも言えない苦しみを**場に来ているうちにふっと言える**時が来る。
偶然の出会いで話せることもある。（グリーンフケアCafe）

キーワード

- 💡 支援が必要な人 ≡
つながることが難しい人
- 💡 特別な「支援」ではなく、
“人としての関係性”
- 💡 寄り添うことで話せるこ
とがある



ヒアリングで見えてきたこと 「寄り添う体制を整える」に関連 ②

意見

- ✓ **障害受容がない人の支援は難しい。**時間をかけて**信頼関係**を築く必要がある。“障害”の看板があることで**相談しにくい**と感じる人も。
(ぽるて)
- ✓ **これがやりたいと思った時に、サポートしてくれる人の顔色を窺ってしまう。**本当の気持ちを聞いてもらえる関係が大事。（障害者差別をなくす会）
- ✓ **外見だけでは支援が必要とわからない。**親が「**特別な支援**」を嫌う。複合的な課題を抱える家庭が増え、**1団体だけでは対応が難しい。**
(IPC西国分)
- ✓ **つらいことを受け止めるのもつらい。**“いのちの電話”の現場では辞めていく相談員も多い。ふれあいの会の班長が独居の孤独死に責任や罪悪感を感じてしまうこともある。**支える人の心のケアも必要。**
(グリーンフケアCafe)

キーワード



「課題」を入口とした支援や相談のしにくさ



支援機関や団体が単独でできることの限界



困難に向き合う支援者の支援の必要性

10

ヒアリングで見えてきたこと 「地域とともに創る人を育む」に関連 ①

意見

- ✓ 地域の中には「手伝いたい」「やりたい」という人が潜在的にいるが、**行動に移すきっかけ**がない。（グリーンケアCafe）
- ✓ 活動への**意欲がある人とつながるきっかけ**がほしい。心意気ある人が**参加しやすい仕組み**が必要。（ボナペティ）
- ✓ 何かをしたい人は多くいるが、**きっかけや踏み出す勇気**が必要。
「自分のペースで」「これくらいならできる」という**気軽さがあると参加しやすい**。小さな「できる」が重なって自信に。（ちょいボラ参加者）
- ✓ 子ども食堂に高校生が参加。小学生にとっては大人より**近い関係性**でコミュニケーションが取れ、高校生にとっては子どもに関わる**仕事を考えるきっかけ**に。（上津子ども食堂）

キーワード



潜在的な思いを行動に移すきっかけや仕組み



気軽さがあると参加しやすい



子どもに地域活動に参加してもらうことの大切さ

ヒアリングで見えてきたこと 「地域とともに創る人を育む」に関連 ②

意見

- ✓ 役員ができないという理由で自治会を脱退する人が出てきたので、規約を見直して役の決め方を変えるように検討中。自治会をフランクな声掛けができる場にしたい。（グランピア津福）
- ✓ 地域の役員がどうにかしなきゃいけない風土では、担い手不足になる。皆で負担を分散できるよう情報発信して住民を巻き込む役割が大事。（（株）TASUKIリハビリ）
- ✓ 我々のような中間組織がそれぞれの分野にあって、テーマ毎に機能するといい。中間支援団体育成にも伴走型支援が必要。（筑後川コミュニティ財団）
- ✓ “儲け”より“地域の未来”。社会貢献を行うことで企業価値が上がるという利点もある。（（株）丸信）

キーワード

- 💡 地域活動の担い手の負担軽減
- 💡 地域住民に向けた情報発信の大切さ
- 💡 活動団体をつなぐコーディネート力
- 💡 「地域貢献」は企業と地域の両方にとってのメリット

12

プランへの反映

- ヒアリング、アンケート、ワークショップでの意見を基に、現プランの8つの課題と13の取組項目を見直す。
- ヒアリングで把握した団体や地域の取組みを踏まえて、住民同士で、暮らしの中での人とのつながりを生み出すことを支援するコミュニケーションツール（アクションブックなど）を作成。市民に無理のない“1歩”を踏み出してもらえるようにする。
- プランの資料編に意見を掲載。

したしみやすい
プランに

